
平成24年度 事業計画書



平成24年4月1日より平成25年3月31日まで

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

平成24年度事業計画策定にあたって

本年度の事業計画遂行においては、次の3つのキーワードが関わる重要な年度になります。

まずは、未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」は、被災地とは比較にはならないものの、私共の昨年度事業に少なからず影響を受けた年度でありました。

地震発生後早くも1年が経過されるも、未だ復旧・復興の目途がたたない地域も多くあり、大変苦難な環境の中での復興にご尽力されておられる多くの皆さまには、衷心よりお見舞い申し上げます。1日でも早い復興を願うとともに、引き続き微力ながら支援に傾注した事業を進めていきます。

二つ目は、1981年（昭和56年）の国際障害者年を契機に翌年8月設立された当基金も、設立より30年目を迎える大きな節目の年度となります。

設立時の趣意を柱に、先人の方々の軌跡に沿いながらも、今の時代に相応した新たな軌跡の第一歩を踏み事業を意識し進めていきます。

三つ目は、公益法人制度改革に伴う国の認定を受け、新たに公益財団法人としてスタートする年度であります。

障害のあるなしに関わらず暮らすことのできるよりよい社会づくりを目的として、創意工夫あふれる良質な事業展開を行い、社会的責任を果たしていきます。

ふれあいの広場事業は、当基金が設立以来、取り組んでいる事業です。スポーツや音楽等を通じて、障害のあるなしに関わらず共に参加し楽しむことのできるプログラムを創造し、開催してまいりました。

「ふれあいのスポーツ広場」事業は、自動車総連からの物心両面にわたるご支援をいただきながら、平成23年度は震災の影響で未開催地域があったものの、富山県では初めての開催が実現し、結果として全国31会場で開催することができ、この活動の広がりを実感できた事業となりました。本年度は、当基金と自動車総連との共催として全国各地で開催し、20年目を迎えるに至ります。さらに拡充に努め、37会場での開催を目指すとともに、プログラムの見直しやPR活動も進め開催をしていきます。

「ユニバーサル音楽ワークショップ」事業は、前年度に引き続き、明星大学・星山ゼミとの協働で開発したプログラムを、障害のあるなしに関わらず、広く社会とつながり、人との出会いの場をつくることを目指し、これまでのプログラムをさらに深化させて継続開催してまいります。

本年度の事業推進では、前年度に実施した有識者によるプログラム開発のための研究会の成果を実践に活かせるためのプログラム導入をし、より充実した事業を行ってまいります。

また、前年度も実施した「発達障がい児と家族のためのウインターキャンプ」も本年度の3回目に向け、その主旨の浸透を図り、当基金に根付いた事業として実施してまいります。

さらに被災地への支援事業として、今なお家族分散や屋外での規制ある生活環境で、心身に大きな負担を受けている福島のご家族を対象に、前述の「発達障がい児と家族のためのウインターキャンプ」の実践を生かして、自然環境の良い地域で、伸び伸びと家族同士や同じ境遇におられる方々が、共に心に寄り添う時間を過ごし、家族力が向上できるキャンプを実施いたします。

これら事業の前提として、会員拡大をはじめ、さまざまな手法での助成等の資金調達を行うために、役職員の力をあわせて取り組んで参ります。

多くの皆様のご理解とご支援のもと今年度事業が展開できますよう、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成24年4月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

1. ふれあいの広場事業

(1) ふれあいのスポーツ広場の実施

障害のあるなしに関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施されている事業です。

平成4年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、全国的に展開しております。以来、今までの間に開催地域も全国33会場までに拡大してまいりました。

障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとして、ユニバーサルスポーツをキーワードに、各種スポーツ団体や障害者スポーツの研究者との検討により、多くのプログラムを創造してまいりました。

現在、同志社大学スポーツ健康科学部の藤田紀昭教授を中心とする大学生のみなさんに、独自のユニバーサル・スポーツプログラムの実施をお願いすると共に、社団法人日本エアロビック連盟、日本障害者フライングディスク連盟、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. のみなさまに、ユニバーサルなプログラムを提供いただいております。

多くの関係者、ボランティアの皆様を支えられ、今年度においては下記の都道府県において開催を計画しております。

実施時期 平成24年4月～平成25年3月

開催地域 北海道、青森、岩手、秋田、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、富山、石川、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、沖縄

開催数 全国37会場（予定）

共催 全日本自動車産業労働組合総連合会

後援 内閣府、開催都市、開催都市教育委員会等

協力団体 社団法人日本エアロビック連盟

日本障害者フライングディスク連盟

大学障害者体育スポーツ研究会（同志社大学）

仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act.



ロープ送りの模様



風船バレーの模様

プログラム内容

☆第1競技（ロープ送り）

各チーム2列縦隊です。スタートの合図でロープを片方の列に縦に送らせます。列の最後尾で向側に渡し正面方向に帰ってきます（Uの字を書くような要領）。ロープの一番最後にバチが結んであるので、ゴールまでロープがまわってきたらゴールの人（列先頭片側）は太鼓まで行き思い切りうちます。早く太鼓を打てたチームが勝ち。

☆第2競技（移動玉入れ）

1チームを向き合う形に並ばせて、その間を背負いかごが移動し幾つ玉が入るか競う。

☆第3競技（風船バレー）

人間ネットを挟み風船を打ち合う。自陣の風船が少ない方が勝ち（相手に多く打込む）。

昼食・アトラクション

☆第4競技（みんなでストレッチ）

休憩時間の後でもう一度体をほぐしましょう。

☆第5競技（じゃんけんダンス）

インストラクターの指示に従いダンスを行います。一定の動きからフィニッシュでじゃんけんぽん。勝った人は負けた人からポイント（洗濯バサミ）をもらいます。ポイントが一番の人はみんなから拍手。

【特徴】

全ての競技が、年齢・障害の度合い等、身体能力の差を気にせず参加できることを目的に考案されたプログラムです。

午前の3競技は、いずれの競技も激しい動きを必要とせず、かつゲーム性を高めたプログラムとして形成されております。

午後からの2競技は障害のある方はもちろんですが、健常者でも運動効果のあるプログラムであり、また、音楽との組み合わせによりレクリエーションとしての要素を取り入れたプログラムです。付添いで参加されているご家族・施設職員の方に覚えていただき、日常の中で利用いただけるように開発されております。



(2) ユニバーサル音楽ワークショップの実施

平成20年度より、明星大学教育学部の星山麻木教授を中心とするユニバーサルワークショップ研究会との共同研究により開発したワークショップは、音や音楽、身体表現等によって子どもたちのコミュニケーション能力を伸ばし、障害のあるなしに関わらず、心が通じ合うことの楽しさ、相手を知ることによって障害理解のきっかけとすることを目的としたユニバーサルなプログラムです。

プログラムを作成する過程は、教職員を目指す大学生を中心に研究され、自らが指導実践することから、指導者育成についても有効なプログラムとなっています。

平成24年度には、好評を得たプログラムの内容をより充実させ、実施いたします。

実施時期：平成24年10月～平成25年2月の3回

開催地域：東京都、愛知県、福岡県

対象者：幼稚園・保育園児、小学生の児童

講師：ユニバーサルワークショップ研究会（ワークショップ共同研究団体）



(3) 発達障害児と家族のためのウインターキャンプの実施

発達障害児の療育と、その家族のレスパイト及び交流を目的として、ユニバーサル音楽ワークショップの実績を生かし、そのプログラムを折り込みながら、キャンプを通じた様々なプログラムを実施いたします。

運営は、ボランティアへの参画と意識の向上を目的として、ボランティアによる実行委員会を組織し実施いたします。

共催：日産労連、

NPO 法人日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」、
明星大学星山ゼミ、

実施主体：ウインターキャンプ実行委員会

実施時期：平成25年2月の1泊2日

会場：ゆうらいふ御殿場（静岡県御殿場市）



(4) 福島の発達障害児と家族のためのキャンプ

平成23年3月の東日本大震災では、多くの被害の中で、障害のある子どもたちの家族にも多大な影響を及ぼしました。今回、発達障害のある子どもとその家族のためのキャンプを行ってきた実績を活かし、福島県で暮らす家族の皆様にとって、心地よいプログラムを提供するために、横浜YMCA、日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」のご協力の元、神奈川県三浦市内において、キャンプを実施いたします。

共 催：財団法人横浜YMCA
日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」
日 程：平成24年7月21日（土）～24日（火）3泊4日
会 場：神奈川県立YMCA三浦ふれあいの村（神奈川県三浦市）
対 象 者：福島 / いわき地区周辺の発達障害児とその家族12組約48名

2. 開発、普及及び育成事業

(1) 子ども向けユニバーサルワークショップのファシリテーター育成講座の実施

平成21年度より、障害のあるなしに関わらず共に音楽を通じて楽しむことのできる「ユニバーサル音楽ワークショップ」の手法を、学校教育等の現場で、多くの教職員や指導者に理解いただくための、指導者育成講習を全国各地で実施いたしました。

昨年度より、この講座の内容を再検討し、より深化したものにしていいため、様々な分野や立場で活躍されている指導者同士の連携と研究により、新しいプログラムの開発を進めてまいりました。

今年度は、今までの指導者講座から少し踏み込んで、障害のある子どももそうでない子どもと一緒に学び、育ちあえる場づくりとしてワークショップを取り入れ、実践しようと思っている専門職向けのファシリテータートレーニングを実施します。

実施時期：平成24年10月～平成25年2月の3回
開催地域：北海道、大阪府、福岡県
対 象 者：教育・福祉の専門職員及びその学習をしている学生等
講 師：

星山麻木（明星大学教育学部教授）
青木将幸（青木将幸ファシリテーター事務所代表）
中村絵乃（NPO法人開発教育協会事務局長）
中尾幸彦（ランテック計画事務所取締役）



(2) 各事業報告書の発行

障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、報告書として整理し配布いたします。

発行時期：平成25年3月

発行部数：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

対象者：教育・福祉の専門職員及びその学習をしている学生等

(3) ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に務めている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年4回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めていきます。

発行月：6月、9月、12月、3月

発行数：各1,200部。当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

内容：ふれあいの広場事業に関わるプログラム内容、手法、実施の状況等

3. 調査研究事業

(1) ユニバーサルスポーツプログラム研究会の実施

新たな取組として、「ふれあいのスポーツ広場」で実施している、ユニバーサルなスポーツプログラムをより深化させ、同様な取組を行っている様々な立場の指導者の相互研究の場として研究会を組織化し、プログラムづくりと指導者交流の場として位置づけます。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

座長：藤田 紀昭（同志社大学スポーツ健康科学部教授）

構成員：障害者スポーツ等の指導者、福祉関係者等

開催数：年6回程度

内容：障害のあるなしに関わらず共に取り組むことのできるスポーツプログラムの先行事例の調査と新規プログラムの創造

報告書：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

(2) ユニバーサル音楽ワークショップ研究会の実施

「ユニバーサル音楽ワークショップ」で生まれた課題や、新たな手法を研究し、ワークショップという手法の有効性を確認しながら、新たなプログラムの枠組みを検討していくために、研究会を組織し、専門家を交えて検討してまいります。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

座 長：星山 麻木（明星大学教育学部教授）

構 成 員：教職員、学校教育、社会教育等の指導者、福祉関係者等

開 催 数：年6回程度

内 容：障害のあるなしに関わらず共に取り組むことのできる音楽ワークショッププログラムの先行事例の調査と新規プログラムの創造

報 告 書：当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

